リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高松市立下笠居小学校

【取組内容①】 課題解決に必要と考える情報を収集･共有し、課題解決を目指す授業

第４学年
　総合的な学習の時間「下笠居の魅力を探ろう ～住吉川の調査をもとに～」

【事前・導入：情報収集と蓄積（個人）　学習支援ソフト】

①　情報を蓄積する
- これまでの取組を振り返りながら、下笠居地区の魅力を再確認し、単元のテーマに基づく課題を探っていった。
- 児童が個々に見つけた課題の解決に向け、Web検索により新たな情報を探り、蓄積していった。

②　児童自身が選択・判断する
- 個別最適な学びの実現に向け、児童自身が選択・判断できる場（自己決定）を保障していった。

【展開①：情報共有と協働学習（グループ）
　学習支援ソフト、Microsoft Excel】

①　情報を共有する
- 学習支援ソフトを活用し、児童が収集した情報や考えをクラス内で共有した。

②　他者参照を促し、協働学習で学習を深める
- 情報を共有することで、つまずく児童や悩んでいる児童が他者参照でき、学びを進める支援となっていた。